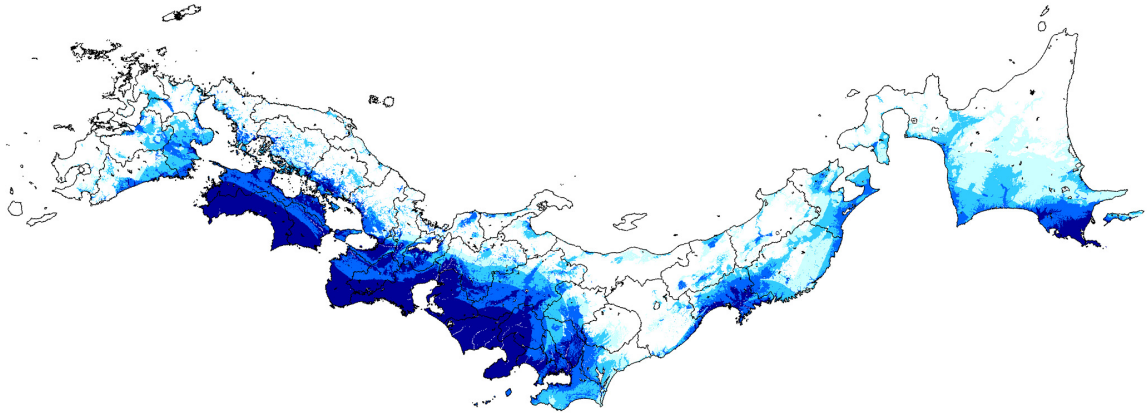
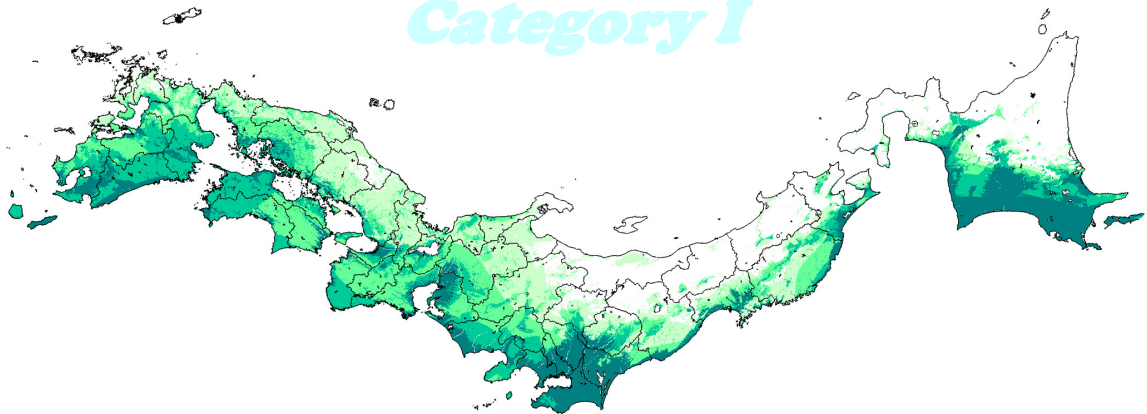


全国地震動予測地図

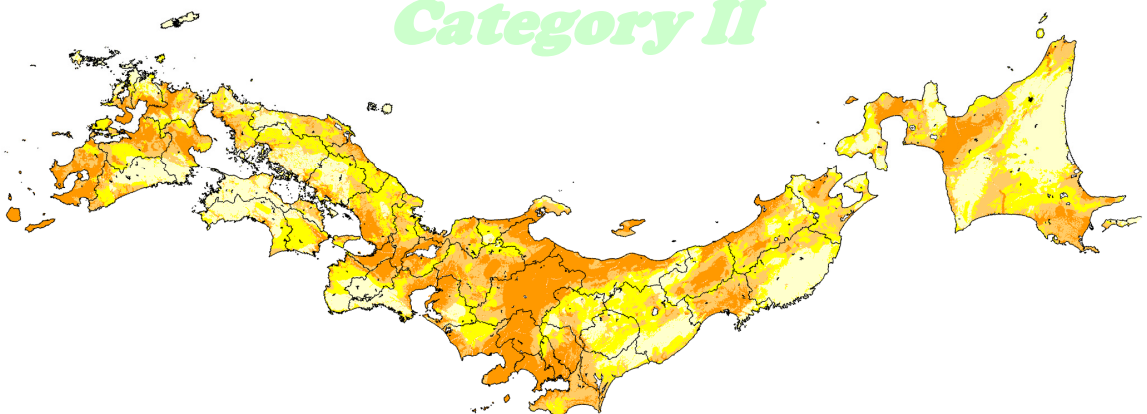
地図編



Category I



Category II



Category III

全国地震動予測地図 地図編 目次

確率論的地震動予測地図

確率の分布

今後 30 年間の確率（平均ケース・全地震）	2
今後 30 年間の確率（平均ケース・地震カテゴリー別）	6
今後 30 年間の確率（平均ケース・地震カテゴリー別・四分位表示）	18
今後 30 年間の確率（最大ケース・全地震）	30
今後 30 年間の確率（最大ケース・カテゴリーⅢ）	34
今後 30 年間の確率（最大ケース・カテゴリーⅢ・四分位表示）	38

確率の分布（連続表示）

今後 30 年間の確率（平均ケース・全地震・連続表示）	42
今後 30 年間の確率（最大ケース・全地震・連続表示）	43

最大影響地震カテゴリー

今後 30 年間の最大影響地震カテゴリー（平均ケース）	44
今後 30 年間の最大影響地震カテゴリー（最大ケース）	48

震度の分布

今後 30 年間の震度の分布（平均ケース）	52
今後 30 年間の震度の分布（最大ケース）	60
今後 50 年間の震度の分布（平均ケース）	64
今後 50 年間の震度の分布（最大ケース）	80

<参考> 新版と旧版の比較

新版と旧版の今後 30 年間の確率の差の分布（平均ケース）	88
新版と旧版の今後 30 年間の確率の差の分布（最大ケース）	92

震源断層を特定した地震動予測地図 94

- ※ 本書における地震発生確率と地震動超過確率は、2009 年 1 月 1 日時点の評価値です。
- ※ 本書に掲載した地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000（空間データ基盤）及び基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平 20 業使、第 638 号）
- ※ 本書では、日本測地系を使用しています。
- ※ 本書に示した行政区は、2009 年 1 月 1 日時点のものです。
- ※ 日本領土のうち、南鳥島と沖ノ鳥島では、計算に必要なデータが整備されていないため、地図を作成していません。
- ※ 確率論的地震動予測地図の作成に必要な地震発生確率を計算する際に、主要活断層帯の「平均活動間隔」や「最新活動時期」が用いられますが、それらの評価結果に幅がある場合が多いので、主要活断層帯については両者の中央の値を代表値として地震発生確率を計算する「平均ケース」に加えて、評価された確率の最大値を用いる「最大ケース」を考え、両ケースの地図を作成しています。活断層はカテゴリーⅢに含まれるので、「最大ケース」のカテゴリー別の地図はカテゴリーⅢの地図のみ（カテゴリーⅠとⅡの地図では「平均ケース」と同じ）となります。
- ※ 震源断層を特定した地震動予測地図は、別冊 2 に地方毎にまとめられている索引表の断層番号順に掲載されています。
- ※ 全国一律に手続き化された詳細法によって震源断層を特定した地震動予測地図が作成されていない活断層については、本書に地図が掲載されていません。別冊 2 の表にはそれらのリストも載っていますので、必要に応じて参照して下さい。